

# 排便障害の原因の一つに直腸瘤があります

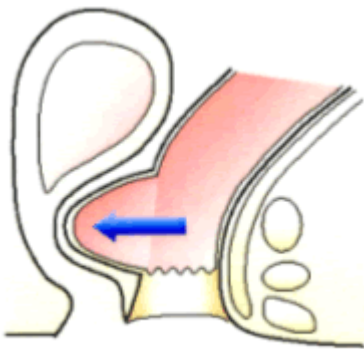


図1 直腸瘤

便意を感じていきんでも便が出ない排便障害の原因の一つに直腸瘤(正式には直腸膣壁弛緩症 Rectocele といいます)があります。この疾患は腹圧が直腸にかかると、直腸の壁が膣のなかに向かって膨らんでくる病態で、直腸と膣の間の壁が弱くなったために生じるとされています(図1)。今回は、意外と頻度が多い割に知られておらず、他の疾患(直腸脱や子宮脱)とも間違われやすく、大腸肛門病の専門医にも注目されている直腸瘤について紹介します。

## 原因

直腸と膣の間の結合織が弱くなる原因として多産、鉗子分娩、子宮切除、慢性便秘、骨盤の手術などがありますが、若い女性でもまれにみられます。症状:「便が出口まできているのに出ない」のが主症状ですが、残便感、膣の違和感、会陰部の鈍痛や違和感を訴えることがあります。肛門周囲や膣を押さえると排便しやすくなる症状は特徴的といえます。

## 診断

肛門指診でほぼ診断はつきますが、正確には模擬便を直腸内に入れて排便時の直腸の形態を評価する排便造影検査(ディフェコグラフィーともいいます)を行います。治療:無症状の方は治療の対象になりません。軽症の方は緩下剤やバイオフィードバック療法を行います。重症の方は手術的治療が必要となりますが、いろいろな方法があります。当院では経膣的アプローチによる直腸膣壁縫縮術を行っており、手術術式(図2)と手術症例(表1)を呈示します。

(岩川和秀ほか:直腸膣壁弛緩症 愛媛医学 21:324-328,2002)

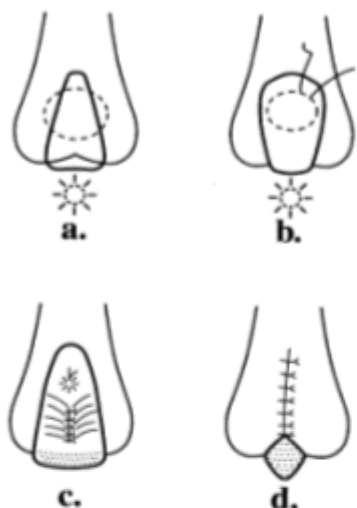


図2 手術術式

- a 瘤前面の弛緩した余剰腔壁を切除する。
- b 瘤状の直腸壁をタバコ縫合で縫縮する。
- c 前方の括約筋形成を付加する。
- d 下端を少し開放して腔壁を縫合閉鎖する。

表1 手術症例

症例	年齢	性別	分娩回数	術前症状	術後症状
1	65	女	3	排便に30分以上かかる 1回/3日排便 用手的便を要する	整腸剤で毎日排便
2	78	女	8	肛門周囲ミルキング 少量ずつ頻便	毎日排便 時に出にくい
3	52	女	2	残便感 排便30分後に排便ある	内服なしで快便
4	69	女	4	排便困難、残便感、腹痛伴う	残便感少々残る